



2853



114
A1678



豫算表中地租挿入ノ辨

我帝國會計ノ年度維新以來改正一ニシテ是ラ
ス是ヨリ先キ徳川氏ノ政ヲナスニ方テヤ曆年一
周ヲ以テ會計年度トセシカトモ己巳年間之議ニ
テ曰ク我國ノ歳ハ米穀ヲ以テホトス故ニ其收
獲ノ時期ニ關セスシテ年度ヲ立ルハ制ノ宜キ
モノニ非ス乃チ己巳十月ヨリ庚午九月ニ至ルマ
テヲ以テ會計年トシ爾來此法ヲ遵用スルキ
ト定メタリ是ヲ年度改正ノ第一回トス而シテ是
年會計室ニ垂問シ歳計ノ盈絀ヲ審量セシ

天正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

歳

十月以後會計年ノ歳入出豫算表ヲ上ラシ
ル此レ維新以後會計表ヲ作ルノ濫觴ニシテ
今日計算ノ精緻ヲ究ルニ至ルモ其原ヲ茲ニ
非ズト謂ザルヘカラス其豫算方法ノ如キハ下ニ
於テ反覆縷述スヘシト雖モ先ツ茲ニ歳入ノ何
物タルヲ辨明セシ夫レ歳入ニ三種ノ別アリ一歳
一回收入スルモノハ地租ノ類是ナリ毎月收入スルモ
ノハ海関税ノ類是ナリ一年ヲ半截シテ二期ニ
收入スルモノハ市街税ノ類是ナリ此三類中ニ
於テ地租ヲ以テ最モ鉅額ナルモノトシ其他ハ

僅々タル少數譬ハ杯滴ヲ以テ瓦水ヲ補フカ如
シ故ニ下ニ論スル所只地租ノ一邊ニ就テ之ヲ概言ス
ル者ハ大ヲ舉ケテ小ヲ略スルノニ請フ辞ノ他二類
ニ及ハサルヲ答ル勿レ今夫レ巳年ノ豫算ハ何年
ノ地租ヲ以テ立算セシヤト細ニ攷索スレハ果シテ
巳年分ト稱スル所ノ數ヲ掲ケタルナリ蓋シ此時ノ
會計年度巳午二年ニ涉ルルハ二年適當ノ地
租ヲ併算スヘキカ如クシテ爾セサルモノハ他ナシ巳年
ノ地租ノニ此年度間ニ納ハシテ庚午地租ハ後ノ
會計年ニ至ラサレハ曾テ收入スル丁ナキヲ以テ之ヲ

推算ムベカラサレハナリ延テ壬申ニ至ルマテ年トシテ
豫算表ヲ製セサルナリ但未タ之ヲ世ニ公布セサルノ
ミニ此法ヲ遵嚴セザルナリ既ニシテ壬申年未改曆
ノ事アリ故ヲ以テ六年一月以後會計年度ヲ
改正シ前年十月十一月ヲ奇零ト做シ別ニ之ヲ
措置セリ是ヲ年度改正ノ第二回トス而シテ其
地租ノ如キハ従前ノ慣法ニ依リ壬申分ヲ以テ
本年ノ歳入ニ充ツルハ疑フヘカラス但夏納ト稱スル
モノ既ニ其前年ニ於テ貢納スル成規アルニ由リ
地租ノ中ニ於テ本年其收額ヲ欠クト雖モ六年

ハ又六年ノ夏納アツテ其減額ヲ填補シ一歳ノ
全收ニ至テハ固リ欠漏アルニ非ルナリ且其代價ハ
前後二年各異ニシテ同視スヘカラサルノ理アリト
虽モ抑夏納ノ額タルヤ僅々タル地租ノ小部分ニ
テ設令差異ヲ生スルモ此概算ヲ害スルニ足ラス
トス是レ則チ當時ノ胸算ニシテ後ノ豫算ヲナス
者トシ斯意ヲ主張セサルナリ爰ニ人アリ疑問ヲ設
テテ六年ノ歳入ハ六年ノ税額ヲ以テ之ニ充ツヘシ
若シ前年ノ地租ヲ以テスルハ海関税等ノ如キ
本年毎月納入スルモノト相背馳スルニ非スヤト曰

ハ、先ツ試ニ之ニ反問セシ六年ノ豫算ハ又ラス五年
ノ歳抄ニ於テス知ラス是時何ノ方ヲ以テ豫シメ
六年ノ豊凶ヲ量定シ又何ノ術ヲ以テ其米價ヲ
算測スルヲ得ヘキヤモシ強テ之ヲナスモ到底臆測
ニスキサルノミ故ニ此臆測ノ害ヲ避クルヲ求メテ故
非背馳ノ憂ヲ顧サルナリ矧ヤ出納ノ現計ニ對同セ
シムルニハ此レ彼ヨリ好キモノアルニ於テオヤ且六年
公布ノ會計表例言第三款ニ記タル今年米價
低下ノ極云々及ヒ七年會計表例言第八款米價
算測ノ法ヲ言フモノヲ潛心玩味セヨ其言フ所ノ

地租ナルモノ果シテ何年ノ數ヲ指スヤ喋々辨ヲ
費ヤサスミテ昭ニタラニ因テ一言之ヲ所シテ曰ハシ豫算
ハ甲年ノ地租ヲ以テ乙年ニ挿入スルモノナリト抑此挿
入ノ法タル帝ニ六年七年ニ用ユルノミニ非ス之ヲ既往ニ
逆推スルニ各年皆然ラサルナシ若夫前ノ疑者ノ説ニ
據テ之ヲ既往ニ推サンニ辛未九月ノ豫算ニ至テ其
説忽窮セシ何ツヤ曰ク辛未七月藩ヲ廢シテ縣
トナスノ令ヲ布ケルニ非スヤ然ルニ是時ニ方リモシ
壬申ノ地租ヲ以テ豫算ヲ立ルトセハ各廢藩辛未
ノ貢租ハ棄テ汝メヌ之ヲ誰ノ有ニ歸セシムヘキヤ故ニ

辛未七月ノ公布ニ云ハスヤ庚午ノ租税ヲ以テ辛未
九月マテノ諸費ニ充ツヘシ云々乃チ知ル辛未ノ租税
ハ壬申九月マテノ歳出ニ供スルノ豫算ヲ立テタル
明ラカナルヲ是故ニ此挿入ノ順次ハ年度ノ改正ニ関
セス曩時ヨリ今日ニ亘リ貫串通用順次推シテ一
ノ欠陥ナク一ノ顛倒アルトナシ此レ即チ前ニ甲年ノ
地租ハ乙年ニ挿入スル者ト一言明濟シテ疑ハサル所
以ナリ然リ而シテ昨七年ニ至リ累年會計ノ景状ヲ
通觀ニ利弊ノ在ル所ヲ實驗シテ年度改正ノ議
ヲ上リ允准ヲ經ヘ本年七月ヲ以テ其初期トス是レ

之ヲ年度改正ノ第三回トス而シテ其改正ノ旨趣ト
本年前半歳豫算調理ノ方法ノ如キハ業已ニ
具狀スルアルヲ以テ再言ヲ要セスト虽モ茲ニ本年
ノ改正ト壬申ノ改正トヲ以テ較シ更ニ一言シ以テ前説ノ
餘蘊ヲ竭ク曩者ノ改正ハ二箇月ノ贏餘ヲ
生スル者ノ如ク今回ノ改正ハ後ノ六箇月ヲ減刑スル
者ノ如ク其形況大ニ異ナル者アルハ曩者ノ二個月
ハ地租ノ救入殆トナキニ近シ故ニ之ヲ前年ニ隸屬ス
ルモ妨ケナシ今回ノ如キハ本年方ニ納入スヘキ巨額
ノ地租アルヲ以テ繳令一周年ニ滿タサルモ此六個月

ラ一ノ會計年ト看做シ其歳入出ヲ豫算セサルハカ
ラサルノ理アリ之ヲ要スルニ地租ノ納期大抵前半
人際ニ在テ後半年ニ在ラスコレ即チ前後ノ改正
其趣ヲ同セサル所以ナリ而シテ此意ヲ推シテ以上論説
ノ旨ニ反顧對照スルキハ此回六個月間ノ豫算猶逐
次挿入ノ慣法ヲ遵用セサルハカラサルノ理モ亦自ラ瞭然
明晰復疑ヲ容ル、了ナカルヘシ

大藏省
歳算

六年會計表ノ例言第三款

租税ハ多ク米ヲ以テスルハ其米價ノ高低ニ
因リ出入ノ額ニ於テ大ナル差異ヲ生スルナ
リ實ニ今年ノ如キハ米價低下ノ極度
ト雖モ猶今此ニ揭示スル金額ノ歳入アリ

七年會計表ノ例言第八款

米穀ヲ金價ニ換ルノ計算ハ各地方ヨリ
申渡スル所ノ客歳八九月間ノ米價ニ

同年未迄ノ景況ヲ参酌シテ算出セシモノ
ナレハ設令後日貢納ノ代價ト差異ヲ生
スル下アルモ其僅々タル疑フハカラヌ

辛未七月二十五日公布

縣元藩

今般藩ヲ廢ニ縣ヲ被置候處昨午年
租稅收納相濟候儀ニ付当未年九月迄ハ
右收納ヲ以テ諸費悉皆從前之通可取
計事

辛未九月 大藏省達

当秋收納及当辛未十月ヨリ出納之儀ハ不相
当無之分ハ先ツ從前ノ仕来ヲ以テ当分
取計置別紙雛形之通西月分取纏メ勘定
書往來日數ノ外二十五日ヲ限取調無違定可
差出事

但去庚午租稅ヲ以テ当辛未九月迄ノ諸
費取賄儀ハ当七月御布告之通可相
心得且營繕堤防土木等費用及旧藩
造楮幣引替并負債返済其外臨時諸

拂ノ儀ハ都テ其節々同之上可取計事

大藏卷

7